



夜須 保 幼 小 中 合同避難訓練

夜須中で
体験!

10月13日(金)、夜須保育所・夜須幼稚園・夜須小学校・夜須中学校で津波を想定した合同避難訓練が行われました。保育所・幼稚園は来年の1月に夜須こども園として高台への移転が決まっており、今年度で最後となる合同避難訓練の様子を夜須中学校で取材させていただきました。(広報編集委員 担当/井上桂子)

訓練を終えて



普段の訓練が大切 ～訓練後の振り返り～

避難路の途中、これから坂道というところで泣き出してしまった園児がいました。また、安全なところまで着いた途端、体調を崩してしまった生徒さんも。

訓練を終えて、生徒たちは

- 「実際には、地面のひび割れや家の崩壊などで避難が困難になることが考えられる」
 - 「地面が割れたり木々が倒れたりして、ふつうに走れる状態ではないと思う」
 - 「いつ地震が起こるかわからないので、訓練で学び行動して避難の時に活かせるようにしたい」
 - 「実際に起こった時にはパニックになり、訓練通りにいかないこともあるので1回1回の訓練をたいせつにしていきたい」
- などと振り返っています。

避難所は、優しいお兄さんお姉さんがいるところ

みき まもる
三木 守校長先生は「巨大津波が襲ってきた場合、海から約1キロメートルの夜須中の立地を考えると、津波は海からだけでなく、夜須川をさかのぼって横からも後ろからも襲ってくると考えなければならない。また、ほどなく停電し情報も届かなくなってしまう。だから揺れが収まったら、迷うことなく一番高いところへ逃げるのが大切で、そこに24時間はとどまっていたい」とおっしゃいます。

さらに、「避難先は優しく温かく寄り添ってくれるお兄さんお姉さんがいる場所だと思ってもらいたい。そうすれば避難の際の苦しさや避難先での不安が少しは安らぐのではないかな。現在在籍している生徒たちは、何年も前から合同で避難訓練を重ねて来ており、訓練には真剣です。中

学生となった今は、これまでの助けてもらう側から幼い園児や高齢者、けが人を助け寄り添う側になってもらいたい」との思いを語ってくれました。

「逃げる途中で泣いたり苦しんだりした子どもたちが、頑張って行ったら優しいお兄さんお姉さんがいると思えるよう、避難所では明るく温かく柔らかな雰囲気づくりを担えるように…」とも。

一方、中学生の安全をどう保障するかや二次避難所での保護者への引き渡しについては、まだ多くの課題があるとおっしゃいます。「今後いろいろな事情やケースを考え、新たなルール作りに向かって、親子で、家庭で、学校で話し合いを重ね、行政とも連携していきたい」と語ってくださいました。



みんなで高いところへ頑張って逃げよう!!

③保育所の子どもたちと合流▼



実際に起こった時は、パニックになったり泣いたりするだろうな

②避難開始▼



- 裏口から上履きで、ヘルメット・救急胴衣を着用
- 向かう避難先は約800メートル先の高速道路の高架橋の下

①緊急地震速報発令



9時50分
開始



揺れがおさまったら、どっちの階段から逃げたらいいんだろう



想像していたよりキツいな

夜須小学校のグラウンドを通り抜ける

④坂道を上る



もう少しで安全な高さだからがんばれ～!



⑤高架下に集合▼ 完了



全員の無事を報告

濱田市長も参加しました

みんなよく頑張って走りました。中学生のみんな、小さい子どもたちへの補助をありがとう!